

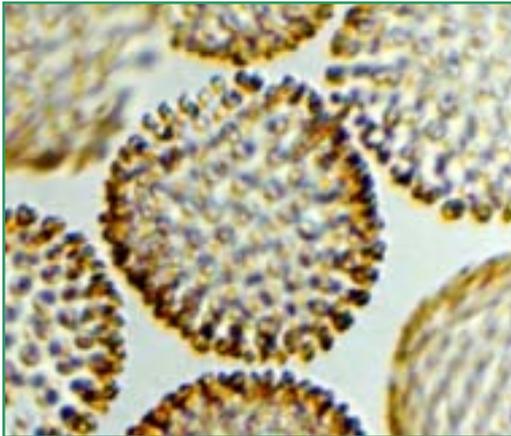
# 瀬田川プランクトン調査結果速報

～ 第35報 ～

滋賀県立衛生環境センター  
琵琶湖水質担当  
平成14年11月25日

## 1. 最も数が多かった種類（優占種）

植物プランクトン第1優占種



*Uroglena americana*

(ウログレナ)

黄色鞭毛藻類

楕円形の細胞が球状の寒天質の表層に規則正しく配列し、球状の群体を形成する。各細胞は不等長の2本の鞭毛を有する。

動物プランクトン第1優占種



*Acanthocystis chaetophora*

(アcantキスチス)

太陽虫類

体は球形で多くの偽足を放射状に出している。小型の太陽虫で軸足が非常に長いのが特徴である。

コメント

植物プランクトンは今回も引き続き、淡水赤潮の原因となるウログレナが多かった。また、ヒメマルケイソウと呼ばれるキクロテラ グロメラータも、増加傾向にある。動物プランクトンも、引き続き小型の太陽虫類に属するアcantキスチス ケトフォラとドロウムシが多かった。

## 2. 見つかった主なプランクトンとその数（個体数）

### (1) 動物プランクトン

第 1 優 占 種		個体数 (個体 / l)
肉質虫類	<i>Acanthocystis chaetophora</i>	2100

第 2 優 占 種		個体数 (個体 / l)
繊毛虫類	<i>Codonella cratera</i>	440

\* 個体数については、プランクトンネットで採取したものを直接検鏡して計測した。

# 瀬田川植物プランクトン調査結果速報

滋賀県立衛生環境センター

琵琶湖水質担当

平成14年11月25日

第35報

## (2) 植物プランクトン

(綱) 種 名	細胞数 (群体数)	優占種(占有率)	
		数	体積
(藍) <i>Anabaena spiroides</i> var. <i>crassa</i>	5		
(藍) <i>Anabaena macrospora</i> var. <i>crassa</i> *	1		
(黄鞭) <i>Uroglena americana</i>	3100		
(黄鞭) <i>Dinobryon divergens</i>	7		
(黄鞭) <i>Ochromonas</i> sp.	10		
(黄鞭) <i>Mallomonas fastigata</i>	2		
(珪) <i>Melosira granulata</i> var. <i>angustissima</i>	75		
(珪) <i>Cyclotella glomerata</i>	440		
(珪) <i>Cyclotella</i> sp.	30		
(珪) <i>Skeletonema potamos</i>	100		
(珪) <i>Nitzschia acicularis</i>	60		
(珪) <i>Nitzschia</i> sp.	30		
(褐) <i>Cryptomonas</i> sp.	120		
(褐) <i>Rhodomonas</i> sp.	240		
(緑) <i>Chlamydomonas</i> sp.	10		
(緑) <i>Closterium aciculare</i> var. <i>subpronum</i>	2		
(緑) <i>Staurastrum</i> sp.	2		
(藍) 藍藻綱	6	0.1	2.7
(黄) 黄緑藻綱	0	0.0	0.0
(黄鞭) 黄色鞭毛藻綱	3119	73.7	61.2
(珪) 珪藻綱	735	17.4	14.1
(渦) 渦鞭毛藻綱	0	0.0	0.0
(褐) 褐色鞭毛藻綱	360	8.5	18.1
(み) みどり虫藻綱	0	0.0	0.0
(緑) 緑藻綱	14	0.3	3.9
(他) その他のプランクトン	0	0.0	0.0
総 細 胞 数	4234	総体積	1.35E+06
種 類 数	17	( $\mu\text{m}^3$ )	

注1) 細胞数の単位は(細胞 / ml)

ただし\*印の種は群体数(群体 / ml)

注2) 優占種は が第1優占種、 が第2優占種

数字は各綱ごとの占有率(単位: %)

注3) 細胞体積は、顕微鏡観察による画像から

試験的に推定した概算値である。